

# リアリズムの迷宮



日本軍の真珠湾攻撃を描く戦争映画「トラ・トラ・トラ！」(一九七〇年)は、当初、黒澤明監督が日本側のシークエンスを監督するはずだったが、結局、降板を余儀なくされることになる。そのような結果を招いた要因の一つに、黒澤が配役の際に職業俳優を嫌い、素人俳優をたくさん起用し、撮影が停滞したことにあるという。主人公である山本五十六海軍大將はとある会社社長が配役され、演じるはずだったのだ。しかし、やはりこれは無謀と言える配役ではないかとわたしは思う。その人がいくら会社人として有能な人材であったとしても、俳優として有能だとは限らないからである。

晩年、俳優の勝新太郎は、自らが俳優として演じる時も、監督として撮影に臨む時も、台本を嫌い、即興演技に強くこだわったという。「即興演技でしか予定調和でない迫力のある演技はできない」というのが勝の考え方だったと思われる。それはそれで一理ある考え方だと思うが、これも黒澤明監督のエピソード同様、相当に無理があるやり方ではないかと思う。台本がないということは、その場ですべてを決めなければならないわけで、撮影に臨む俳優もスタッフも、何の準備もしようもないからである。

二人の天才的な映画監督と俳優が、ともに傍目には無謀と思われる形で撮影に臨んだエピソードを持っていることは興味深いことである。勝手な憶測をすれば、それらはともに「リアリズムの追求」の結果の行為であると思う。これらのエピソードは、「リアルな演技」というものを突き詰めていくと、このような迷宮に入り込む可能性を持っているということを教えてくれる。

高橋いさを

Column -コラム-

〈劇団シヨーマ主宰 劇作・演出家〉